



厳しい冬に 大切な除雪のこと

道路河川課 ☎(88)9148



今年も12月を迎え、寒い日も増えて積雪が心配な季節となりました。今月号では、除雪時の注意点と除雪作業に関わる人たちの声を紹介します。

市道の除雪は積雪10センチから

除雪作業は、市から市内建設業者などに委託して行っています。昨年度は延べ1254時間稼働し、除雪費用は約2800万円でした。除雪は、通勤や通学の時間帯までに完了するよう効率的な作業が必要で、多額の費用が掛かっています。

市道の除雪は、10センチメートル以上の積雪で、第1次路線、第2次路線の順に区域や優先



多くの除雪オペレーターの皆さんが活躍

順位を決めて行っています。第1次路線とは、交通量が多い幹線道路で、例えば、須賀川駅前からJA夢みなみ西袋支店までのインター通りなどです。また、第2次路線とは、学校や病院周辺の道路です。

除雪作業にご理解とご協力を

次の行為は除雪の遅れや事故の原因となりますので、や

めてください。

▼道路への雪出し

▼路上駐車

▼除雪車両の周りへの侵入

特に道路への雪出しは、道路法や道路交通法により罰則が科せられる可能性があります。

除雪作業では、雪を道路脇に寄せるため、自宅前に雪が残ることがあります。自宅前に残った雪は、皆さんで除雪していただくようご協力をお願いいたします。

作業状況によっては交差点などに雪がたまり、見通しが悪くなることや、騒音や振動が発生する場合もあります。早朝の限られた時間での作業となりますので、ご理解ください。



地域で協力して生活道路を確保しましょう

除雪は行政だけで行うには限界があります。除雪車が侵入困難な狭い道路や歩道の除雪は、地域の皆さんの協力が必要です。

地域の皆さんの協力が大切です

例えば、町内会や行政区などで除雪計画を立て、融雪剤を準備することで、効果的な除雪を行うことができます。また、複数人で作業に取り組み声を掛け合うことで、けがや事故の防止につながります。お互いに助け合いの気持ちを持って、厳しい冬を乗り越えましょう。



除雪時のけがや事故には十分ご注意ください

町内会などに除雪費用の一部を助成しています



市道の除雪を町内会や行政区で行ったとき、燃料代などの除雪に掛かった費用の一部を助成します。

対象箇所 市道、地域で利用している生活道路

申込方法 各町内会長・行政区長を通して道路河川課に申し込み

提出書類 ●除雪に参加した人数・使用した機械の内容を記載した報告書 ●燃料を購入した際の領収書 ●作業状況の分かる写真

融雪剤を配布しています

配布量 年度ごとに町内会・行政区は3袋まで、個人は1袋まで

申込方法 道路河川課に申し込み

※配達はいりません。

融雪剤の使用時の注意点

▶配布された融雪剤は、市道へ散布する目的で配布しています。自宅敷地内への使用はできません。

▶融雪剤は、水分と一緒にすることで発熱する性質があります。素手で触れると手が荒れたり、手に痛みを感じることがありますので、ゴム手袋を着用するなど、融雪剤に直接触れないようにしてください。

☎道路河川課 ☎(88)9148





除雪時の強い味方

安全かつ迅速に除雪作業を行う除雪オペレーターの皆さん。彼らの手足となっているのが除雪車です。除雪車ごとに特徴があり、それぞれの場面で活躍しています。安心して通行できる道路を確保してくれる除雪車の一部を紹介します。



ミニホイール除雪ローダ

長さ：約4.5m 幅：約1.7m 重さ：約3.5t

車体の前方に装着したバケットで、雪を寄せたりすくったりして除雪を行います。小回りも利くため、狭い現場で威力を発揮します。



除雪グレーダー

長さ：約9.5m 幅：約2.5m 重さ：約19t

車体の下に装着したブレードで、道路上の雪を寄せたり、凸凹に積もった雪を削って平らにしたりして、走行しやすい道路に仕上げます。特に幹線道路での深い積雪を高速除雪するとき威力を発揮します。



除雪オペレーター 栗野一栄さん(左) 善方紀美男さん

安全第一に 雪の道路を切り拓く

主に長沼地域を担当しており、旧長沼町時代に役場から依頼されたのがきっかけで、それから約20年に渡り、除雪作業に携わっています。

積雪が予想される時には、夜中の2時や3時に出勤し、通勤や通学の時間帯に間に合うように作業を行います。降雪量が多いときには、作業完了がその日の夜になることもあり、神経を使う作業ですので、くたくたに疲れる日もあります。

事前の準備を大切に 皆さんに安心を届ける

夜中の暗い中で雪が積もる

作業時に心掛けていることは、何よりも安全第一に作業を完了させることです。交通事故を起こさないことや、公共物などを壊さないよう、常に緊張感を持って作業しています。

また、その日の風を見て除雪する方向を決め、吹きだまを作らないようにするなど、皆さんにいかに安心して通行してもらえるかを考えながら取り組んでいます。

と、道路の境目が分からなくなり、吹雪になればなおさら視界は悪く、作業が難しくなります。

長年の経験もありますが、こうした状況に対応するためには、事前の準備がとて大切です。何十年も担当している道でも、改めて積雪前に下見を行っており、不安があるような場所には目印の旗を立てるなどの対策をしています。

トラブルが無いことが当たり前ですが、無事作業を終えて帰宅した日は、今日も平和だったなど肩の荷が下りる気持ちです。

感謝の言葉が原動力

私たち除雪オペレーター



安全点検は欠かせません



巧みな技術で積雪を1センチ以下に除雪します

は、安全第一に作業しています。事故防止のため、ドライバーの皆さんも、無理な追い越しなどはしないようご協力ください。また、歩行者の皆さんも、吹雪の日などは無理に外出せず、外出する場合は、日中でも目立つような服の着用をお願いします。

仕事ではありませんが、地元の方から「いつもありがとう。ご苦労様」という感謝の言葉をいただくことがあります。その言葉が私たちの力となり、寒い中での作業も頑張ることが出来ます。

自然相手の大変な仕事ではありませんが、これからも安全第一に頑張っていきたいと思っています。



長沼区長 柏村國博さん

助け合いの気持ちで

長沼区内には幼稚園や小学校があり、区内の歩道などは多くの子どもたちの通学路となっています。

積雪時、以前までは個人の方がボランティアで歩道を除雪してくれていましたが、子どもたちや地区住民のために



600mを協力して除雪します

今後も道路の安全を確保したいと考え、4年前前から区で除雪に取り組むようになりました。機械なども使いますが、毎回10人程で行っています。

区で除雪作業を行い、みんなで協力することで、デイサービスの送迎車の乗降スペースや、介護ヘルパーの駐車スペースを確保することができ、介護が必要な高齢者世帯の助けにもなっていると思っています。

これからも地域住民一人一人が助け合いの気持ちを持ち、自分たちでできることに取り組みながら、住み良い地域になるよう活動を継続していきたいと思っています。

水道管の冬支度を万全に

凍結を防ぐには

▶立ち上がり管が露出している箇所には、保温カバーや古毛布などを巻き、ビニールなどでカバーをする。

▶冷え込むときや長期間不在になるときは、水抜栓(不凍栓)を操作し、水道管の中の水を抜く。

▶水道管に凍結防止用の電熱線が巻いてあるときは、電源を入れておく。



凍結したら 凍結した箇所にはタオルなどを掛け、その上からぬるま湯をゆっくり掛ける。

※熱湯を掛けたり直火を当てたりすると、器具の故障や水道管の破裂につながるおそれがあるので、やめましょう。

水道管が破裂したら

①水抜栓(不凍栓)を閉め、漏水を止める。

②市の指定する「給水装置工事事業者」に修理を依頼する。

※工事事業者が分からないときは、水道お客さまセンター☎(72)8168にお問い合わせください。

☎水道施設課☎(63)7131